

THE STATE OF THE WORLD'S CHILDREN 2012

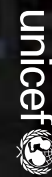
世界子供白書2012

THE STATE OF THE WORLD'S CHILDREN 2012

都市に生きる 子どもたち

都市に生きる子どもたち

© Jonas Bendiksen/Magnum Photos



unite for
children



世界子供白書 2012

世界子供白書 2012
英語版 2012年2月刊行
日本語版 2012年5月刊行

著 : ユニセフ (国連児童基金)
訳 : 公益財団法人 日本ユニセフ協会 広報室
発行 : 公益財団法人 日本ユニセフ協会 (ユニセフ日本委員会)
〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス
(電話) 03-5789-2016 (FAX) 03-5789-2036
ホームページ : www.unicef.or.jp
印刷 : (株) 第一印刷所

The State of the World's Children
© United Nations Children's Fund (UNICEF)
February 2012

UNICEF, UNICEF House, 3 UN Plaza,
New York, NY 10017, USA
ウェブサイト : www.unicef.org (ユニセフ本部)

この白書は国連児童基金 (ユニセフ) が 2012 年 2 月に発表し、
(公財) 日本ユニセフ協会が翻訳したものです。
文中の役職名、肩書き等は本書 (英語版) 編集時のものです。
本書の無断転載・複製はお断りします。
転載をご希望の場合は、(公財) 日本ユニセフ協会 広報室まで
お問い合わせください。

写真
表紙

ベネズエラ (ベネズエラ・ボリバル共和国) ・カラカスの丘の
中腹にあるインフォーマルな居住地で、ダンスをする子ども
たち (2007)。

© Jonas Bendiksen / Magnum Photos

第 1 章 X ページ

トルコ・イスタンブールにて、多くの移民の居住区、タルラ
バシで遊ぶ子どもたち。

© UNICEF/NYHQ2005-1185/Roger LeMoyné

第 2 章 12 ページ

コンゴ民主共和国・キンシャサのはずれにあるスラム、キャン
プ・ルカにて水をもらうため待機する人々。

© UNICEF/NYHQ2008-1027/Christine Nesbitt

第 3 章 34 ページ

イラク・キルクークにて、家族が家の補強に使う金属屑を引
きずる女の子。その家はかつてのサッカー競技場の最上階で、
壁の代わりにカーテンをかけた小スペースである。

© UNICEF/NYHQ2007-2316/Michael Kamber

第 4 章 48 ページ

コートジボアール・アビジャンにて、危険にさらされている
子どもたちへ住居やファミリーサービスを提供する移民税関
執行局 (BICE) の中庭でサッカーをする男の子たち。

© UNICEF/NYHQ2011-0549/Olivier Asselin

第 5 章 66 ページ

キリバス・タラワの小学校にて、グループ・プロジェクトを
している少年少女。

© UNICEF/NYHQ2006-2457/Giacomo Pirozzi

謝辞

本書は多くの方々ならびに組織のご協力により、制作された。編集・調査チーム一同より、快くご助言、ご尽力いただいたすべてのの方々、そして特に、以下の方々に感謝する。

Sheridan Bartlett (ニューヨーク市立大学) ; Jean Christophe Fotso (アフリカ人口保健リサーチセンター) ; Nancy Guerra (カリフォルニア大学) ; Eva Jespersen (国連開発計画) ; Jacob Kumaresan (WHO [Urban Heart]) ; Gora Mboup (国連人間居住計画) ; Sheela Patel (SDI) ; Mary Racelis (アテネオ・デ・マニラ大学) ; Eliana Riggio; David Satterthwaite (国際環境開発研究所) ; Ita Sheehy (国連難民高等弁務官事務所) ; Nicola Shepherd (国連経済社会局) ; Mats Utas (Swedish Academy of Letters) ; Malak Zaalouk (カイロ・アメリカン大学) , 以上の方々は外部諮問委員会の委員としてご協力いただいた。

Sheridan Bartlett; Roger Hart ならびに Pamela Wridt (ニューヨーク市立大学) ; Carolyn Stephens (ロンドン大学公衆衛生学・熱帯医学大学院およびアルゼンチン・トゥクマン国立大学) ; Laura Tedesco (マドリッド・アウトノマ大学) , 以上の方々には、主要論文の執筆者としてご協力いただいた。

Fred Arnold (ICF Macro) ; Ricky Burdett (ロンドン大学経済政治学院) ; Elise Caves and Cristina Diez (ATD Fourth World Movement) ; Michael Cohen (ニュースクール) ; Malgorzata Danilczuk-Danilewicz; Celine d' Cruz (スラム住民国際ネットワーク) ; Robert Downs (コロンビア大学) ; Sara Elder (国際労働機関) ; Kimberly Gamble-Payne; Patrick Gerland (国連経済社会局) ; Friedrich Huebler (国連教育科学機関) ; Richard Kollodge (国連人口基金) ; Maristela Monteiro (汎米保健機構) ; Anushay Said (世界銀行研究所) ; Helen Shaw (英国南東部公衆衛生観測所) ; Mark Sommers (タフツ大学) ; Tim Stonor (スペース・シンタックス) ; Emi Suzuki (世界銀行) ; Laura Turquet (国連女性機関) ; Henrik Urdal (ハーバード・ケネディスクール) ; Hania Zlotnik (国連経済社会局) , 以上の方々には、情報提供およびご助言をいただいた。

特に、惜しみなくその知性と気力を注いでいただいたSheridan Bartlett, Gora Mboup、そして Amit Prasad (WHO) には、深く感謝する。

ユニセフの各国および地域事務所と本部は、調査結果や写真の提供、文章の見直しや草稿へのコメントなどの面で、本書の制作に関わった。また、多くのユニセフ地域事務所とユニセフ国内委員会は、各言語版への翻訳、制作を行った。

以下の方々には、プログラム、政策、コミュニケーション、調査に関する助言とサポートにご協力いただいた。Geeta Rao Gupta (副事務局長) ; Rima Salah (副事務局長) ; Gordon Alexander (調査局・局長) ; Nicholas Alipui, (プログラム局・局長) ; Louis-Georges Arsenault (緊急プログラム局・局長) ; Colin Kirk (評価局・局長) ; Khaled Mansour, (コミュニケーション局・局長) ; Richard Morgan (政策実行局・局長) ; Lisa Adelson-Bhalla; Christine De Agostini; Stephen Antonelli; Maritza Ascencios; Lakshmi Narasimhan Balaji; Gerrit Beger; Wivina Belmonte; Rosangela Berman-Bieler; Aparna Bhasin; Nancy Binkin; Susan Bissell; Clarissa Brocklehurst; Marissa Buckanoff; Sally Burnheim; Jingqing Chai; Kerry Constabile; Howard Dale; Tobias Dierks; Kathryn Donovan; Paul Edwards; Solrun Engilbertsdottir; Rina Gill; Bjorn Gillsater; Dora Giusti; Judy Grayson; Attila Hancioglu; Peter Harvey; Saad Houry; Priscillia Kounkou Hoveyda; Robert Jenkins; Malene Jensen; Theresa Kilbane; Jimmy Kolker; June Kunugi; Boris De Luca; Susanne Mikhail Eldhagen; Sam Mort; Isabel Ortiz; Shannon O' Shea; Kent Page; Nicholas Rees; Maria Rubi; Rhea Saab; Urmila Sarkar; Tegvir Singh Sethi; Fran Silverberg; Peter Smerdon; Antony Spalton; Manuela Stanculescu; David Stewart; Jordan Tamagni; Susu Thatun; Renee Van de Weerd; そして Natalia Elena Winder-Rossi.

本書の編集にあたり、人事異動の最中にも関わらず、継続して、監修、統計表の作成を担当し、貴重な知見やご助言をいただいた Catherine Langevin-Falcon (出版部・部長) には、特に感謝する。

最後に、過去7版の白書でも編集担当を務めたDavid Anthony (政策アドボカシーチーフ) には、その洞察力、サポート、お力添えに特に感謝したい。

白書制作チーム

編集・調査

Abid Aslam, Julia Szczuka (編集担当)
Nikola Balvin, Sue Le-Ba, Meedan Mekonnen (調査官)
Chris Brazier (執筆)
Marc Chalamet (フランス語版編集担当)
Carlos Perellon (スペイン語版編集担当)
Hirut Gebre-Egziabher, *Lead*, Yasmine Hage, Lisa Kenney, Anne Ytreland, Jin Zhang (調査補佐)
Charlotte Maitre, *Lead*, Anna Grojec, Carol Holmes (原稿整理)
Celine Little, Dean Malabanan, Anne Santiago, Judith Yemane (編集管理業務補佐)

制作・頒布

Jaclyn Tierney (印刷翻訳部・部長) ; Germain Ake; Fanuel Endalew; Jorge Peralta-Rodriguez; Elias Salem; Nogel S. Viyar; Edward Ying Jr.

統計表

Tessa Wardlaw (政策実行局、統計・モニタリング部・副部長) ; Priscilla Akwara; David Brown; Danielle Burke; Xiaodong Cai; Claudia Cappa; Liliana Carvajal; Archana Dwivedi; Anne Genreux; Elizabeth Horn-Phatanonthai; Claes Johansson; Rouslan Karimov; Mengjia Liang; Rolf Luyendijk; Nyein Nyein Lwin; Colleen Murray; Holly Newby; Khin Wityee Oo; Nicole Petrowski; Chiho Suzuki; Danzhen You

ウェブ制作・映像

Stephen Cassidy (インターネット・放送・映像部・部長) ; Matthew Cortellesi; Susan Markisz; Keith Musselman; Ellen Tolmie; Tanya Turkovich

デザイン : Green Communication Design Inc.
印刷 : Brodock Press, Inc.

都市化の進行する世界において、子どもたちを最優先に

子ども時代の暮らしが、ますます都市化されてきている。今や、世界人口の半分以上が、そしてその中の十億人を超える子どもたちが、都市や町で生活しているのだ。多くの子どもたちが、教育、医療、レクリエーション施設といった、都市生活の中で与えられる利益を享受している。しかし、電気、清潔な水、保健ケアなどの生活に不可欠な必須サービスを受けられない子どもたちが、圧倒的に多いのである。それが近くにあったとしてもだ。圧倒的に多くの数の子どもたちが学校に通うかわりに危険で搾取的な労働を強いられている。そして圧倒的に多くの数の子どもたちが、疾病や災害の影響を非常に受けやすく壊れやすい住居や過密な居住地に暮らしている。そして、すでにそうしたきわめて過酷な状況に置かれているにも関わらず、その土地からの立ち退きの脅威にも常にさらされている。

貧しいコミュニティに暮らす子どもたちが耐えている困難は、開発計画や予算配分を決定する際の根拠となる、統計上の平均値からは見えない場合が多いため、その状況が永続する。平均値は個人をひとまとめにして扱うため、ある一部の子どもたちの困窮した状況が、他の子どもたちの裕福な状況によって覆い隠されてしまう。そのことの結果の一つとして現われてくるのが、すでに困窮してきた子どもたちが、必須サービスから依然として排除されたままだということである。

ますます多くの子どもたちが都市部で成長している。子どもたちが自らの権利を実現し、能力を開花するには、彼らが必要とする快適な設備と機会を与えなければならない。以下を実現するための行動を早急に起こす必要がある。

- 都市部の子どもたちに影響を与えている貧困と排除の規模の大きさとその性質への理解を深める
- インクルージョン（誰もが受け入れられる社会）を阻むものを特定し、取り除く
- 都市計画、インフラ開発、サービスの提供、貧困と格差を軽減するための広範な取り組みが、子どもたち特有のニーズと優先事項にしっかりと合うようにする
- 都市の貧困層、特に子ども・若者と政府のあらゆるレベルでのパートナーシップを促進する
- 社会から取り残され、困窮した子どもたちが自らの権利を十分に享受できるよう、国際社会、国内、地方自治体、コミュニティで支援に取り組む関係者が、様々な資源とエネルギーを出し合う

こうした行動は目標ではなく、すべての人にとって、そして第一に子どもたちにとって、より公正で人を温かく育む力のある都市や社会をつくろうという目的への、手段である。



世界で最も貧困に苦しむ子どもたちについて考えるとき、私たちの多くがすぐに頭に浮かべるイメージは、サハラ以南のアフリカ遠隔地の村で飢えている子どものイメージだろう。実際に多くの子どもたちが、今日もそのような状況に置かれている。

しかし、この2012年世界子供白書が緊急性を持って明示しているように、世界中の都市や町に暮らす数百万人の子どもたちも、社会から取り残される危険にある。

実際に、今日、数億人の子どもたちが都市のスラムで暮らし、そのうちの多くが基本的なサービスを利用できていない。彼らは、危険なゴミの山や線路脇の過密な居住地で暮らしているために、暴力や搾取から傷害、病気、死といった様々な危険に、非常にさらされやすい存在である。さらに、彼らの生活条件やニーズが、農村部よりも都会の子どもの方が裕福であることを示す総計数字で表されてしまうことが多く、都市の子どもたちに存在する格差が、曖昧になってしまっている。

本書は、ユニセフと我々のパートナーが蓄積してきた証拠（報告）と分析に加え、最も貧しく社会から取り残された子どもたちとその家族が、食料難と立ち退き要求によって、不当に苦しめられていることを表すものである。本書は、貧困と脆弱性から我々が共通して連想する遠隔地の農村部と全く同じことが、都市の中心で起こっていることを示している。

そのデータは衝撃的だ。2050年までに、全人口の70%が都市部で暮らすようになるという。すでに、都市居住者の3人に1人はスラムで暮らしている。アフリカでは、その割合は驚くべきことに10人のうち6人である。こうした状況に暮らす子どもたちへの影響は顕著である。ガーナ、ケニアからバングラデシュ、インドまで、スラムに暮らす子どもたちは、学校に通う可能性がほとんどない状況にある。また、サハラ以南のアフリカの都市や町に暮らす富裕層と貧困層の子どもたちの栄養状態の格差は、都市と農村の子どもたちの格差よりも大きい場合が多い。

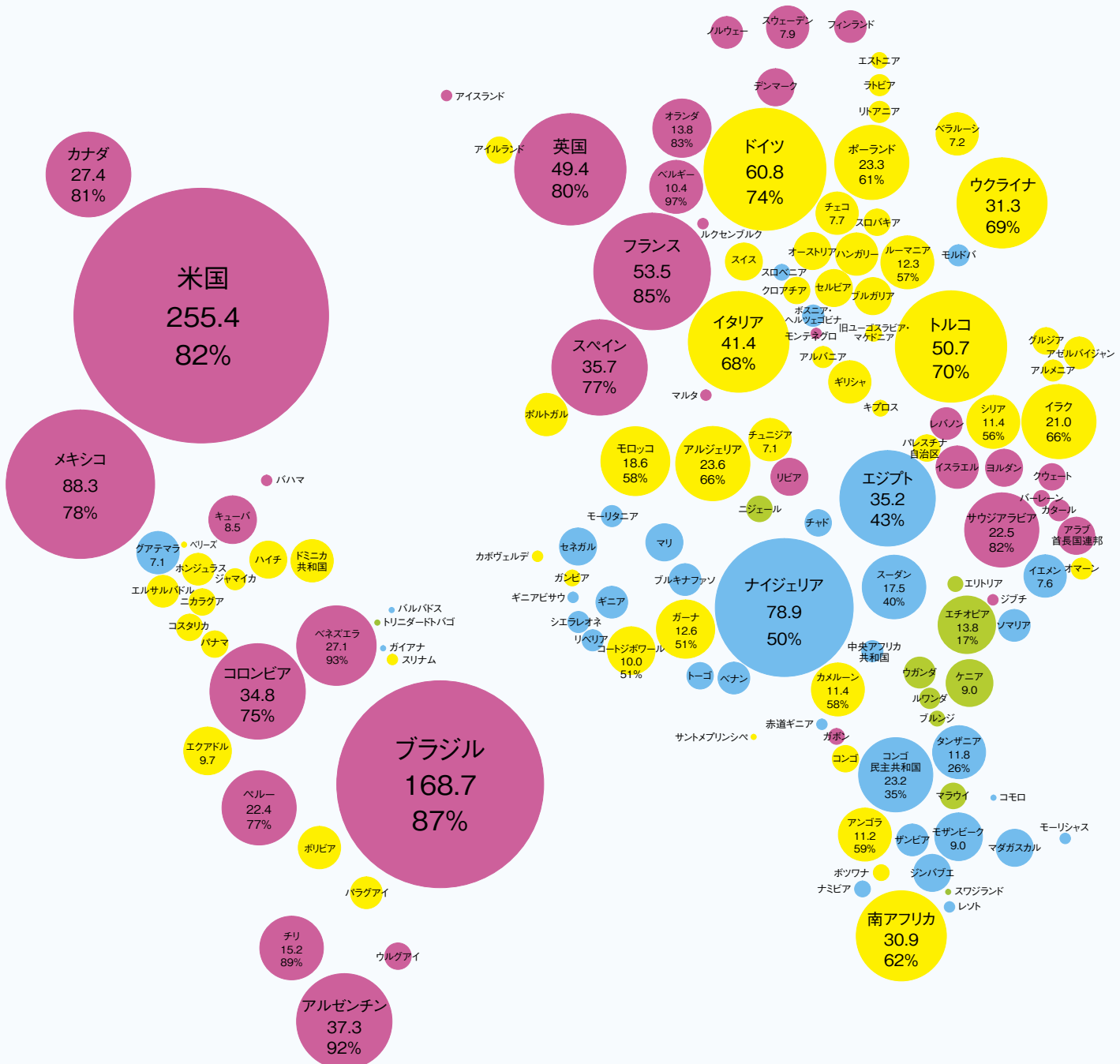
不利益を被る子どもたちは皆、社会において子どもたちの生存、成長、参加の権利を守ることができなかったという、道義的違反の証言者である。そして、排除された子どもたちは皆、失われた機会の象徴である。なぜなら、社会が都市に生きる子どもたちに生産的で創造的な個人として成長させうるサービスや保護を与えなかった場合、社会は子どもたちが生み出しうる社会的、文化的、経済的な貢献を失ってしまうからである。

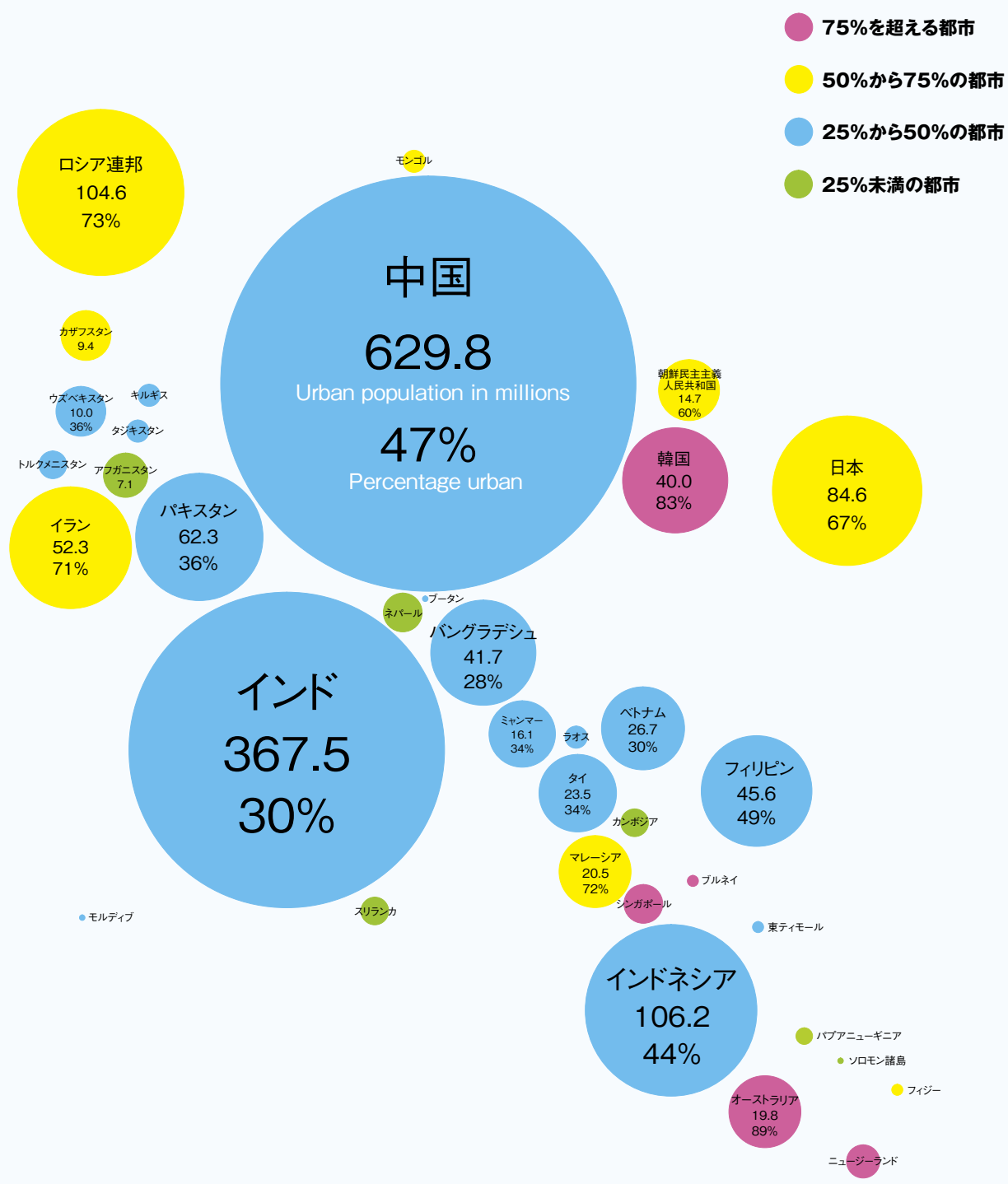
どんな場所で暮らそうが、いかなる場所で疎外され取り残されようが、困窮している子どもたちに手を差し伸べるため、私たちはさらに多くのことに取り組まなければならない。とりわけ、国家予算が緊縮され、援助活動への割当ても削減される時代に、そうする余裕があるのかと疑問に思う人もいるかもしれない。しかし、こうした子どもたちが必要としているサービス、つまり彼らの権利であるサービスから子どもたちを遠ざけている壁を取り払えば、数百万の子どもたちが健康に成長し、学校に通い、より生産的な生活を送ることができるのである。私たちにその余裕はない、と言えるだろうか。

アンソニー・レーク
ユニセフ事務局長

都市化する世界

この図は 10 万人を超す都市人口を持つ国と地域を示している。円の大きさは都市人口の規模に比例している。スペースが許す限り、円の中の数字で都市人口（100 万人単位）と当該国の人口に対する都市人口の割合を示すものである。





注：南スーダンは、2011年7月にスーダンから独立し、7月14日に国連加盟したため、スーダンと南スーダンのそれぞれ一国としてのデータはまだ入手できていない。記載のデータは、独立前のスーダンに関するものである。

中国に関するデータには、中国の特別行政区である香港とマカオは含まれていない。香港は1997年7月1日より中国の特別行政区（SAR）、マカオは1999年12月20日よりSARになっている。フランスに関するデータには、フランス領ギアナ、グアドループ島、マルチニク島、マイヨット島及びリユニオン島は含まれていない。オランダに関するデータには、オランダ領アンティル諸島は含まれていない。アメリカ合衆国に関するデータには、プエルトリコおよびアメリカ領バージン諸島は含まれていない。

目次

謝辞	iii	第4章	
行動	iv	子どもたちにふさわしい都市へ	49
まえがき		政策と協働	49
アンソニー・レーク、ユニセフ事務局長	v	市民参加の都市計画と都市経営	50
		子どもに優しいまち	55
		差別のない処遇	55
		栄養と飢餓	55
		健康	57
		HIVとエイズ	57
		水と衛生	58
		教育	58
		子どもの保護	60
		住宅とインフラ	60
		子どもの安全のための都市計画	61
		少女に安全な都市	61
		安全な遊び場	62
		社会資本	62
		文化的インクルージョン (文化的背景の異なる人々がすべて受け入れられる社会)	62
		文化と芸術	63
		テクノロジー	63
		第5章	
		都市に生きる子どもたちのための結束	67
		都市の貧困と排除についての理解	68
		インクルージョン(誰もが受け入れられる社会)の実現 に向けた障壁の除去	70
		子どもを最優先に	73
		都市の貧困層とのパートナーシップの促進	74
		子どものために成果を出す協働	74
		公正な都市を目指して	75
		パネル	
		都市における健康の社会的決定要因	4
		スラム：5つの困窮	5
		都市についての定義	10
		子どもの権利条約	16
		ミレニアム開発目標	33
		犠牲者ではなく行動の主体者として	38
		武力紛争と都市部の子どもたち	42
第1章			
ますます都市化する世界で生きる子どもたち	1		
都市の未来	2		
貧困と排除	3		
都市の将来の課題を引き受ける	8		
第2章			
都市環境での子どもたちの権利	13		
子どもの権利を実現する環境	14		
健康	14		
子どもの生存	14		
予防接種	17		
妊産婦と新生児の健康	18		
母乳育児	18		
栄養	19		
呼吸器疾患	22		
道路交通事故による傷害	22		
HIVとエイズ	22		
メンタルヘルス(精神的な健康)	24		
水と衛生	25		
教育	28		
乳幼児期の発達への支援	28		
初等教育	29		
子どもの保護	31		
子どもの人身売買	31		
児童労働	32		
路上で生活し、働く子どもたち	32		
第3章			
都市が突きつける課題	35		
子どもの移民たち	35		
経済危機・経済的ショック	40		
暴力と犯罪	42		
災害のリスク	45		

特集

都市における格差	6
都市の貧困層に向けた妊産婦と子どもの保健サービス： ケニア、ナイロビでのケーススタディ	20
子どもの権利を守る都市格差のマッピング（地図化）	26
都市の緊急事態に役立つ戦略	39
女性・子どもと災害、そしてそこからの回復力	41
都市における健康の公平性の評価・対応ツール（アーバン ハート）： 健康格差（health inequity）の定量化と対応	52
子どもに優しいまちイニシアティブ： 草分け的活動の15年	56
ジッダのインフォーマルな居住地の質を高める	64
都市内部のデータ不足	69

視点

ヨルダン、ラニア・アル・アブドゥッラー王妃、ユニセフ親 善大使 見えなければ、届かない	15
アミターブ・バッチャン、ユニセフ親善大使 すべての子どもに届いている： ムンバイにおけるポリオ撲滅	23
オイゲン・クレイ 分離した世界：ロマの子どもたちの孤立	37
ATD第四世界運動ユース・グループ、ニューヨーク市 私たちのための発言	43
トゥイロマ・ネロニ・スレード 太平洋が直面する課題	46
ジョゼ・クロドヴェオ・ド・アルダ・コエリョ・ネト 子どもの生活の構築で都市構築を	51
リッキー・マーティン 私たちの都市で人身売買の犠牲となった子どもたち： アメリカ大陸で搾取された子どもたちの保護	54
セリーヌ・デクルス、シーラ・バテル 地元で成長を見せる解決策	72

図表

都市化する世界	vi
1.1 世界の子どもたちのほぼ半数が 都市部で暮らしている	2
1.2 都市の人口成長は開発途上地域で進んでいる	3
1.3 教育達成度は都市部において最も不平等である	6
1.4 都市人口はアジアとアフリカで 最も急速な成長を見せている	9

1.5 世界の都市人口の半分が人口50万人未満の都市で 暮らしている	11
2.1 富裕層が都市部の5歳未満児の生存率を 押し上げている	18
2.2 都市の貧困層の子どもたちは より栄養不良になりやすい	19
2.3 3歳未満児の発育阻害の蔓延率： ナイロビのスラムとケニアの都市部全体との比較	21
2.4 HIVは都市部でより多く見られ、 女性に多く広がっている	22
2.5 都市部では、改善された水と衛生設備（トイレ） へのアクセスが人口成長の速さに対応できていない	24
2.6 マラウィのリロングウェとブランタイアにおける 貧困のマッピング	26
2.7 イギリス、ロンドンにおける健康アウトカム （施策や事業の実施により生じる効果）の追跡	27
2.8 都市の収入の格差は水のアクセスにおける 不平等も意味する	28
2.9 学校の出席率はスラムで低い	30
4.1 アーバンハート（UrbanHEART）の計画と 実施サイクル	52
4.2 12の中核指標	53
4.3 インフォーマルな居住地の設計シナリオ	65

参考文献	76
------	----

統計表	81
5歳未満児死亡率の順位	87
表 1. 基本統計	88
表 2. 栄養指標	92
表 3. 健康指標	96
表 4. HIV/エイズ指標	100
表 5. 教育指標	104
表 6. 人口統計指標	108
表 7. 経済指標	112
表 8. 女性指標	116
表 9. 子どもの保護指標	120
表 10. 前進の速度	126
表 11. 青少年指標	130
表 12. 公平性指標—居住地域	134
表 13. 公平性指標—世帯の豊かさ	138

略語	142
----	-----